

高倉通信

平川市
東奥日報
尾上販売店
第101号

東奥日報
朝日新聞
読売新聞
読者サービス

2014 平川市民文化祭

「才能よ花咲け夢咲け 天高く」をテーマに、11月2日から30日まで平川市文化センターで行われた市民文化祭。



平賀木工クラブの作品

「子どもの祭典」で幕を開け、柏農展や健康をテーマにした文化講演会、作品展示、最後は舞台発表まで、その間大勢のみなさんが来場されました。

また、第1回川柳コンクールなど、市民参加を呼びかける企画も登場し、文化祭を盛り上げました。

この人に インタビュー 松田智行さん(金屋)

今回は、長崎国体の弓道成年男子近似的競技で、県勢初優勝を飾った松田智行さんです。これまで県内の大会では優勝を経験していますが、国体では昨年の準優勝に続き、今年が初優勝という悲願を達成しました。

近似的という競技は、3人1チームで、28対先的に当たった矢の本数を競う種目ですが、松田さんは、高校1年生から弓道を始め、以来21年間休むことなく練習を積み重ねてきました。その努力

あって念願の日本一となり、支えてくれた仲間や指導者に感謝するとともに「今後も連覇につながるような練習に取り組みしていきたい」とおっしゃっていました。



武道館で練習する 松田智行さん

まちは歩き 尾上のりんご栽培

金屋にりんごが栽植されるようになったのは、明治25年前後といわれ、数年後当時の地主宅では、

1本のりんご樹から1かご以上のりんごが収穫され、大変珍重がられたそうです。南田中ではこれより少し早く苗木を移入して栽培し、苗木も販売したといわれています。

また、りんごの苗木を取り寄せ販売したのは、大正後半から昭和の初め頃とされ、弘前の苗木商から買入れたものを、五所川原の方へ荷車で販売に行くと、途中で売り切れ、再び家に帰り再度販売に行ったこともあるそうです。(当時の品種は国光が主体で、紅玉、旭、祝、印度です)

その後、県内はもちろん、岩手、秋田、北海道方面まで進出しました。

星空のはなし 『いて座』

ギリシヤ神話

上半身が人間で、下半身が馬という姿をしたケンタウルス族の中にあって、ケイロンは弓術や学芸に優れていました。

やがて英雄達を教育する先生となり、引退後は静かに暮らしていましたが、生徒だったヘラクレスとケンタウルス達のけんかにまきこまれ、猛毒が塗られたヘラクレスの矢がケイロンの胸に命中。もがき苦しむものの、神の子ゆえ死ぬことができませぬ。

自らの罪を悔いたヘラクレスは「猛毒が消えないなら、せめて先生に安らかな死を」と神に祈り、それを見かねたゼウスはその願いを受け入れ、ケイロンに安らかな死を与えたということです。その後、ゼウスは、弓の名手ケイロンの死を惜しんで、射手座として星座に加えました。



『いて座』 THE SKYより